

災害の教訓は忘れられるもの！

忘れる法則

～災害の経験や記憶が忘れ去られないように～

2025年9月19日(金)

(公社)日本技術士会北陸本部
防災委員会

藤木 良一

はじめに

● 我が国は、自然災害が多い地域であり、その災害から多くを**学び**、防災・減災の**あり方**を身につけ、その都度防災システムを構築してきた。

また、一方で大部分の人々は時と共に災害を**忘れていく**ことを繰り返してきた。なぜなら、人はどんなに辛いことを経験しても、「**忘れる**」「**忘れようとする**」本能が機能するからである。

しかしながら、その「**忘れる(記憶の減衰)**」「**忘れようとする(忘れない)**」ことが災害の対策を考えるとマイナスとなっている。

忘れる法則

- ・個人 : 3日、3ヶ月、3年
- ・組織 : 30年
- ・地域、社会 : 60年
- ・文化 : 300年

天災は**忘れた**頃に来る

(寺田寅彦)

近年:**忘れない**頃に来る

内 容

1. 避けることができない自然環境
2. 自然環境下での生活と災害
3. 富山県内での災害
4. 忘れる法則（記憶の減衰）

1. 避けることができない自然環境

- ☆“割れ目（活断層）の上”で生活している
- ☆“雨は降るもの”として生活している
- ☆“雪は降るもの”として生活している
- ☆“山・丘はあるもの”として生活している

1-1. 地形の移動(割れ目がある)

日本列島はユーラシア大陸の東側にある。もともとは、大陸にくっついていました。



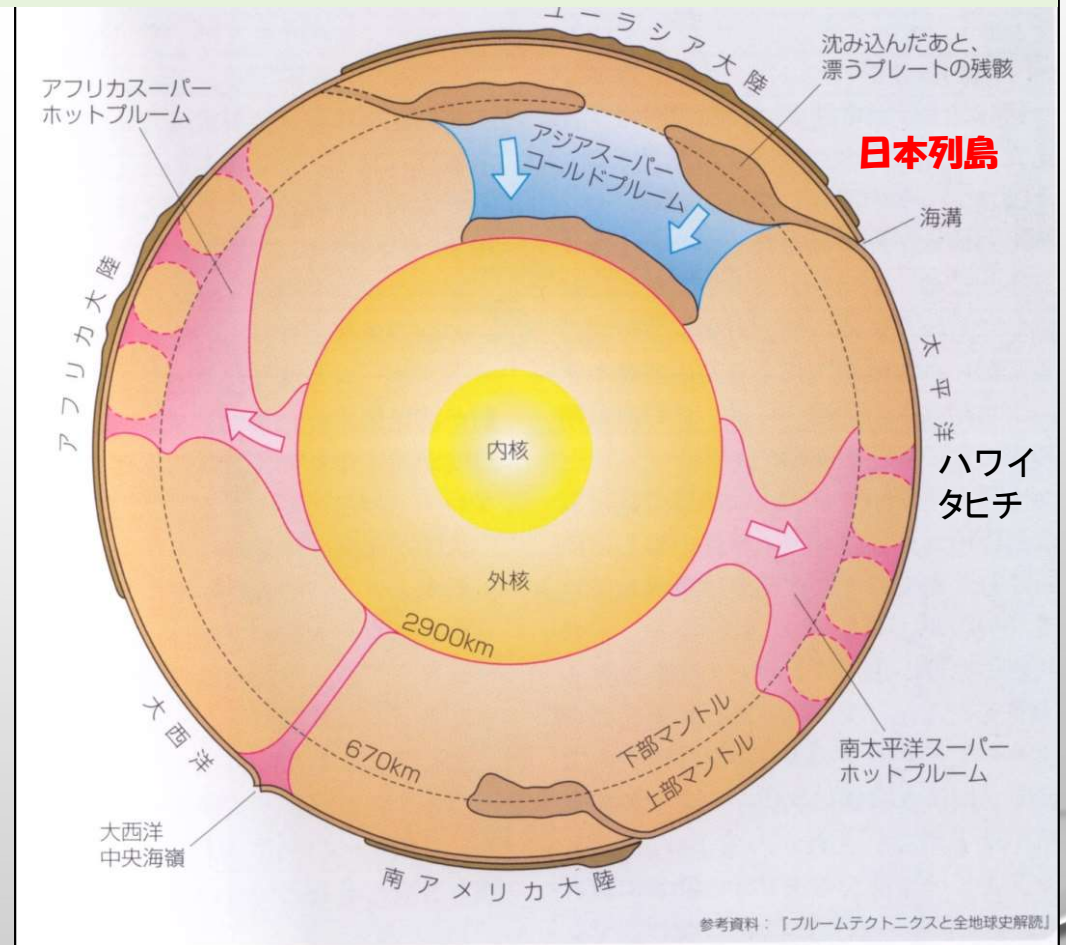
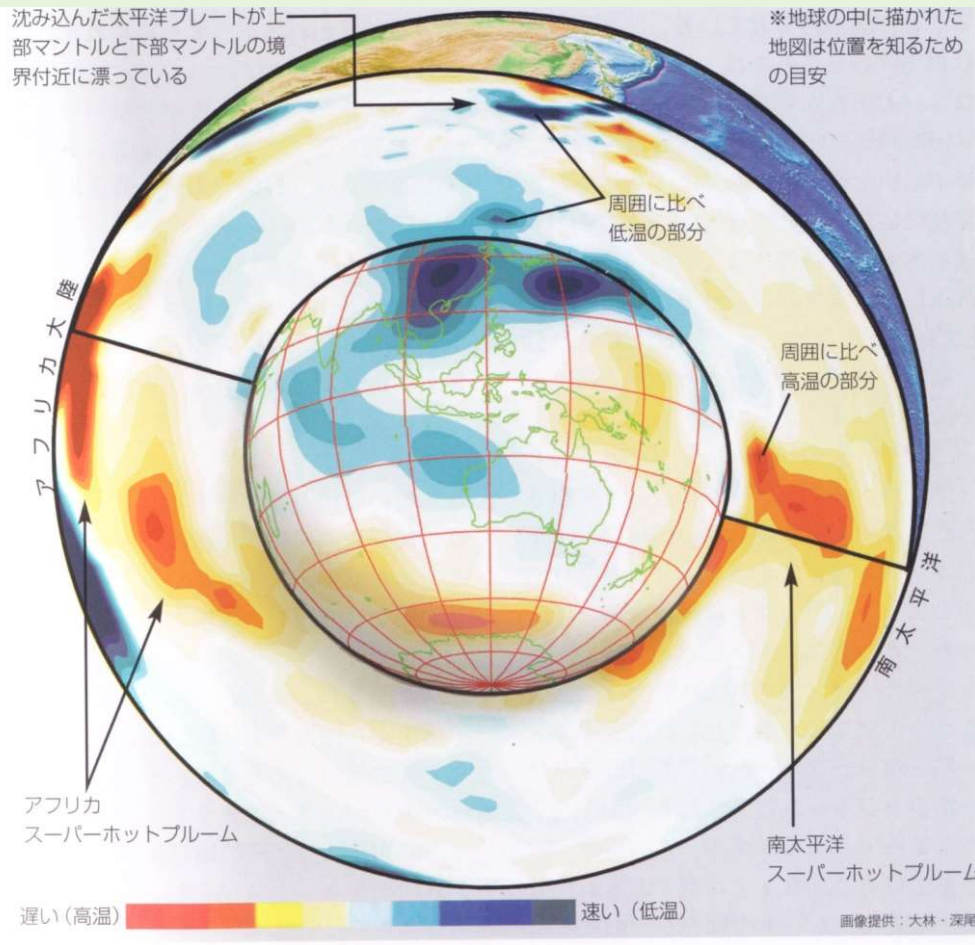
日本列島とユーラシア大陸周辺の地形

(Googleマップ,2012)に加筆。

6,000m以上の深さのものを海溝と呼び、それより浅いものはトラフと呼ばれる。

○ 地殻を移動させている原動力

海洋プレートの上に堆積した岩石には、大量の水が含まれています。海洋プレートが沈み込み、地下約100kmに達すると、温度と圧力の上昇により水が染み出します。海洋プレートから出た水は、大陸プレートを構成するかんらん岩と接触します。かんらん岩は水を吸収すると、一部がとけてマグマになります。大陸プレートの中で発生したマグマは、マグマだまりをつくりながら上昇し地表に出るのです。*** 接触しない水(流体)は蓄積される？**



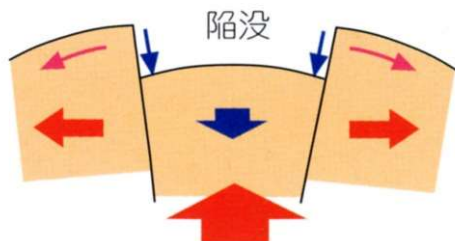
地震波トモグラフィーで見たマントル内部構造

現在のマントル中のブルーム

○ 日本海と日本列島のでき方

日本列島は、約4000万年前にユーラシア大陸東縁から分離。日本海を形成しながら、新しい地層を形成してきました①②。約300万年前に日本海の拡大は終了し、日本列島は東西からのプレートの動きにより圧縮され隆起し始めました③。 → **この地殻変動は現在も継続中です！**

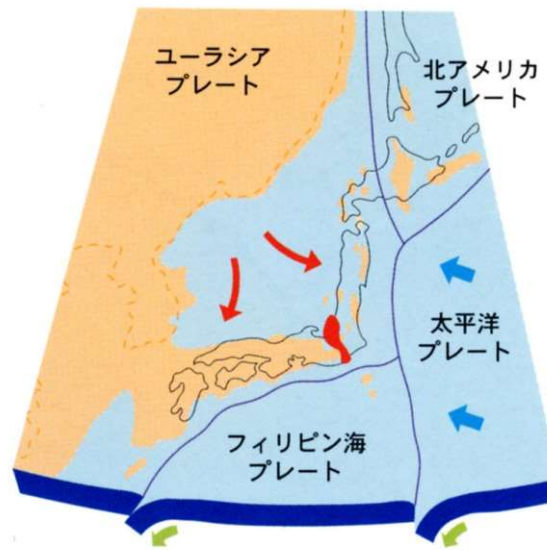
2000 万年前



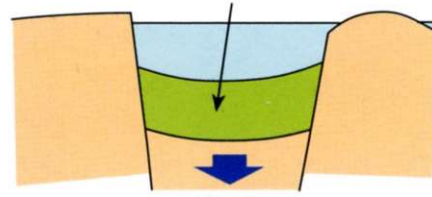
大規模なマグマの上昇

① 約4000万年前に現在のユーラシア大陸の東縁に断裂ができ、次第に拡大する。

1600～400 万年前



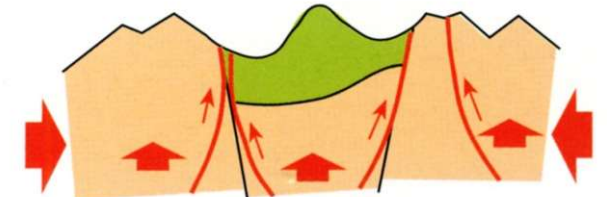
フォッサマグナにたまった「新しい岩石」



沈降

② 東北日本と西南日本は矢印方向へ移動。その境目は「フォッサマグナ」。

300 万年前～現在



日本列島の隆起

③ 約300万年前から東西からの圧縮が始まり日本列島は隆起・山脈の形成。
→ 現在も進行中。

○ 地殻変動に伴う割れ目、ひずみ

地殻変動による割れ目あり

地面を掘り下げていくと最後は固い岩の層にぶつかりますが、この岩の中には**たくさんの割れ目**があります。通常、この割れ目はお互いしっかりかみ合っていますが、ここに「大きな力」が加えられると、割れ目が再び壊れてずれます。

地下深部で地震を発生させた断層を「震源断層」、地震時に断層のずれが地表まで到達して地表にずれが生じたものを「地表地震断層」と呼んでいます。そして「断層」のうち、

特に数十万年前以降に繰り返し活動し、将来も活動すると考えられる断層のことを「活断層」と呼んでいます。



地震とは

壊れてずれる現象を「断層」活動といい、そのずれた衝撃が震動として地面に伝わったものが地震です。

国土地理院 HPより引用



産総研地質調査総合センターHPより引用

活断層の調査・評価が行われているものは地表に現れているもの**(北陸地方で18断層)**。

分かっていない活断層はまだあります。

“割れ目（活断層）の上”で生活している

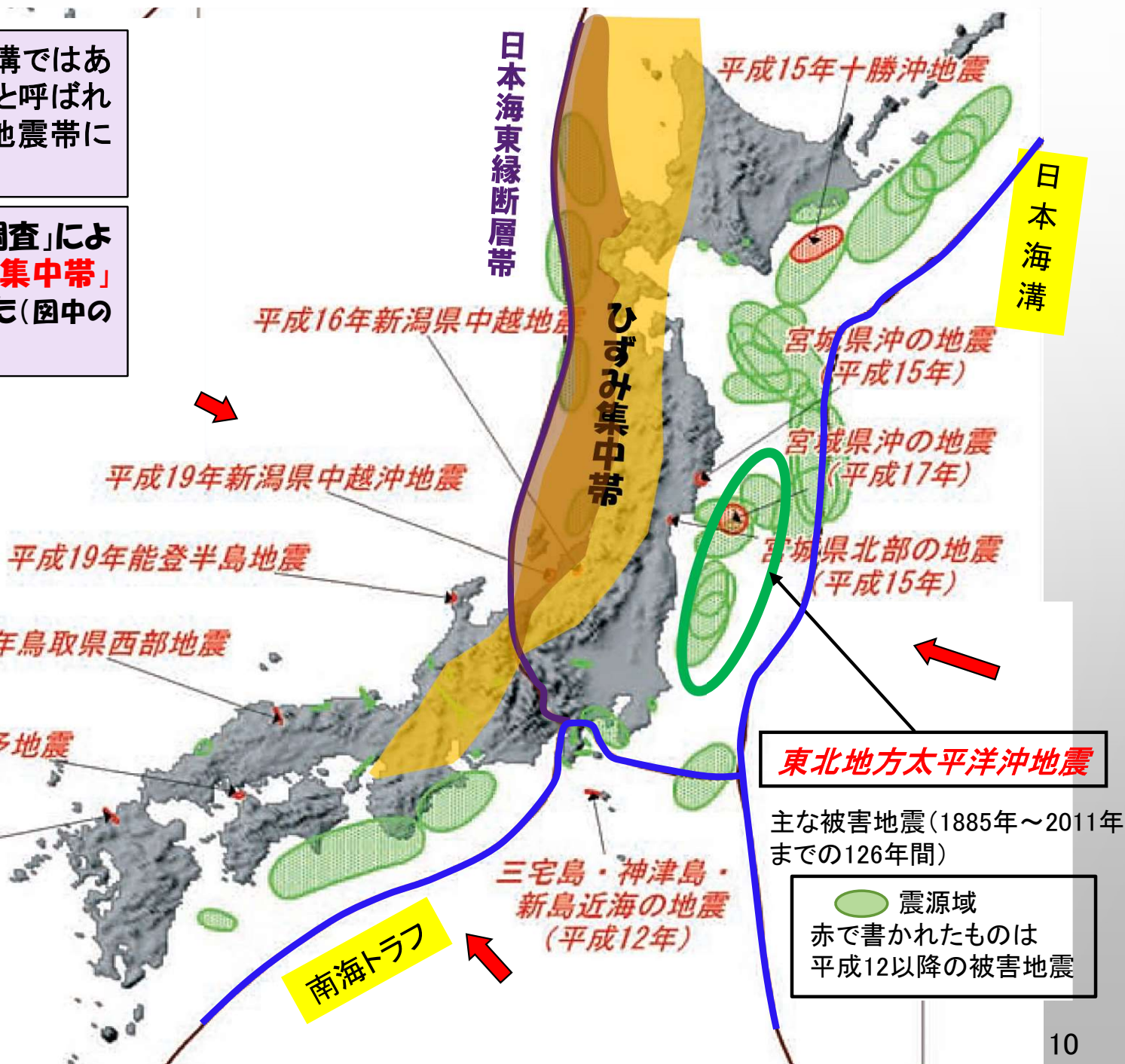
☆「ひずみ集中帯」

日本海側のプレート境界は、海溝ではありません。「**日本海東縁断層帯**」と呼ばれる活断層帯で、日本海沿岸の地震帯になっています。

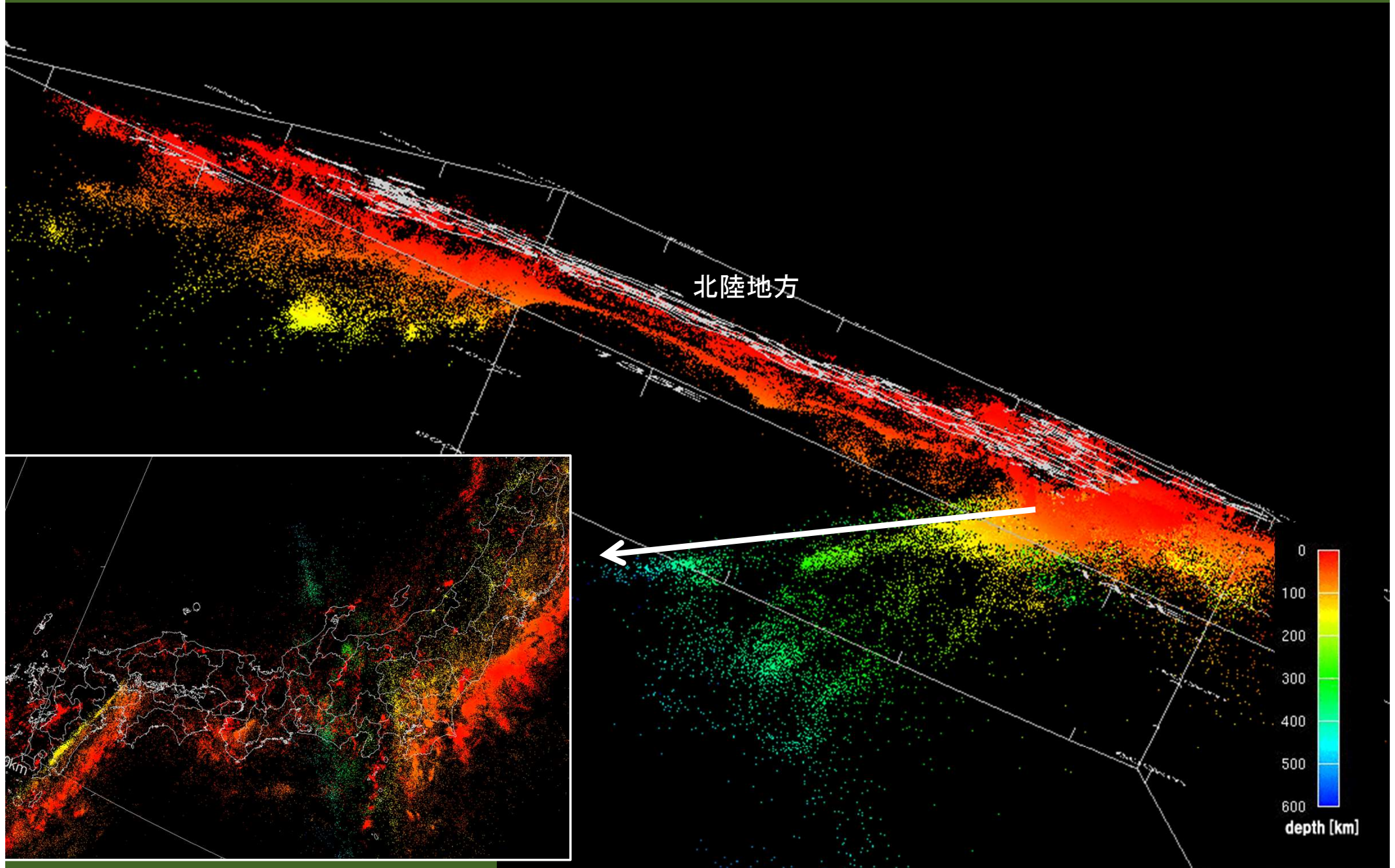
近年「GPS観測」や「地質構造調査」により、**地震が起こりやすい「ひずみ集中帯」**の存在が明らかになってきました(図中のオレンジ色の範囲)。

ひずみ集中帯の範囲は、「日本海東縁部のひずみ集中帯(岡村2002b)」と「新潟～神戸に延びるひずみ集中帯(鷲谷2001)」を便宜的に繋げて表現したものである。

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2009):日本の地震活動ー被害地震から見た地域別の特徴ー第2版. に加筆。



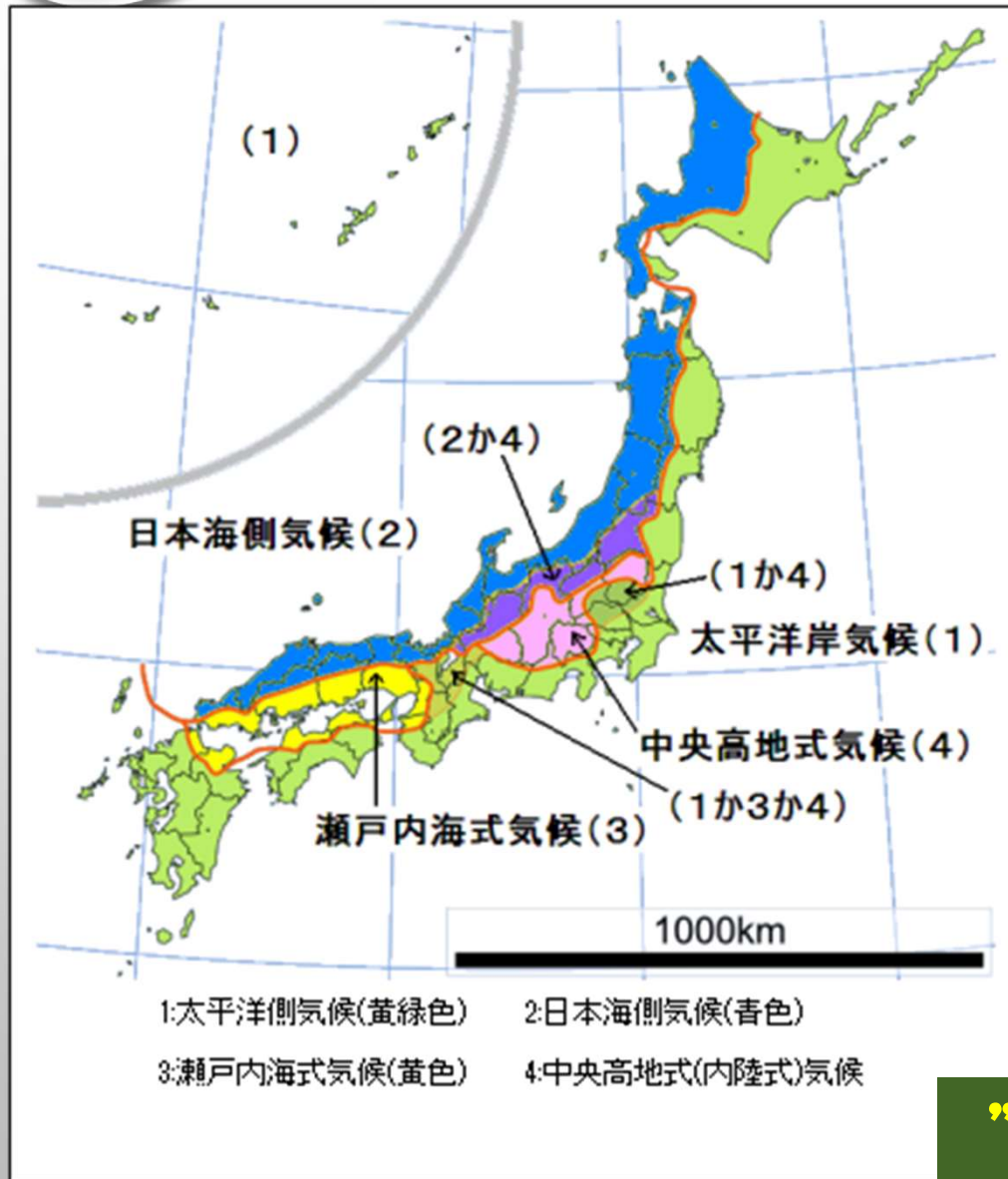
☆ ずれた衝撃（地震）はどこにある？



2017年～2021年
マグニチュード1.5以上の震源分布

(独)防災科学技術研究所VRMLによる三次元震源分布表示に加筆。

1-2. 雨が降る



雨は、太陽の熱で地上の水分が水蒸気になり、上昇気流で上空へ運ばれることで、雲が形成され、その水滴や氷の粒が大きくなって地上に落ちてくる現象。

日本の気候区は、おおよそ左図のように区分されています。

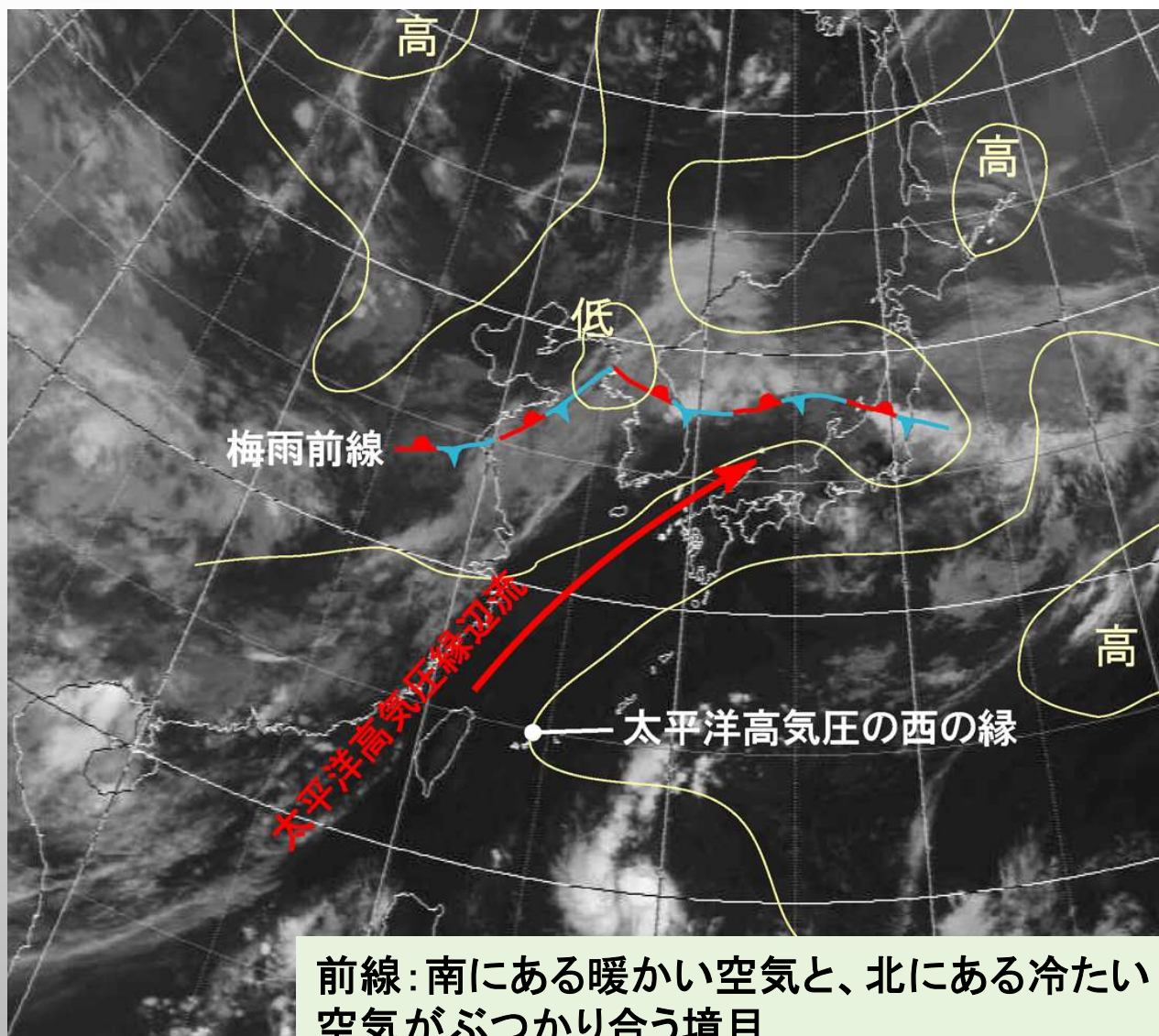
北陸地方は「**日本海側気候**」の地域が主体であり、日本の中でも**多雪地帯**として知られる地域の多くが、この気候に属します。

長野県は、「中央高地式気候」。

“雨は降るもの”として生活している

日本の気候区分

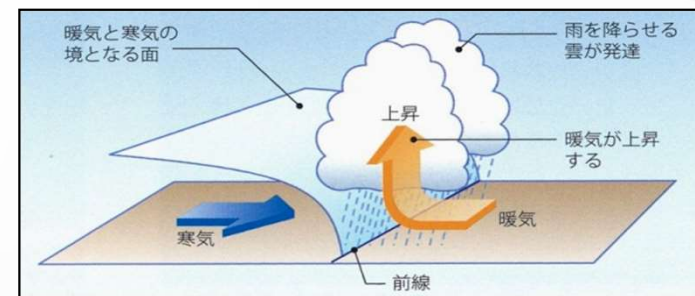
○ 豪雨になる時の気象（前線）



前線：南にある暖かい空気と、北にある冷たい空気がぶつかり合う境目

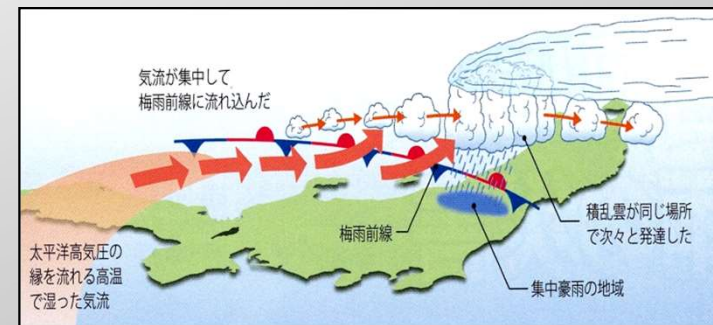
平成16年新潟・福島豪雨

7月13日AM9:00の気象衛星「ひまわり」赤外線画像(気象庁資料)に加筆。



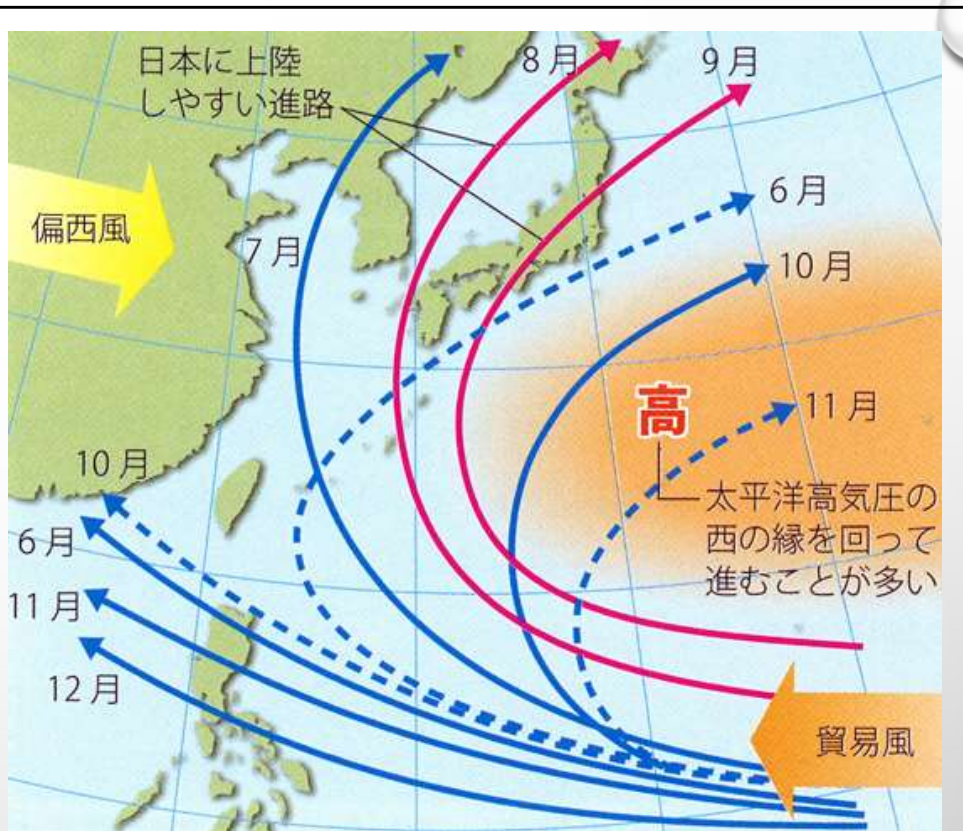
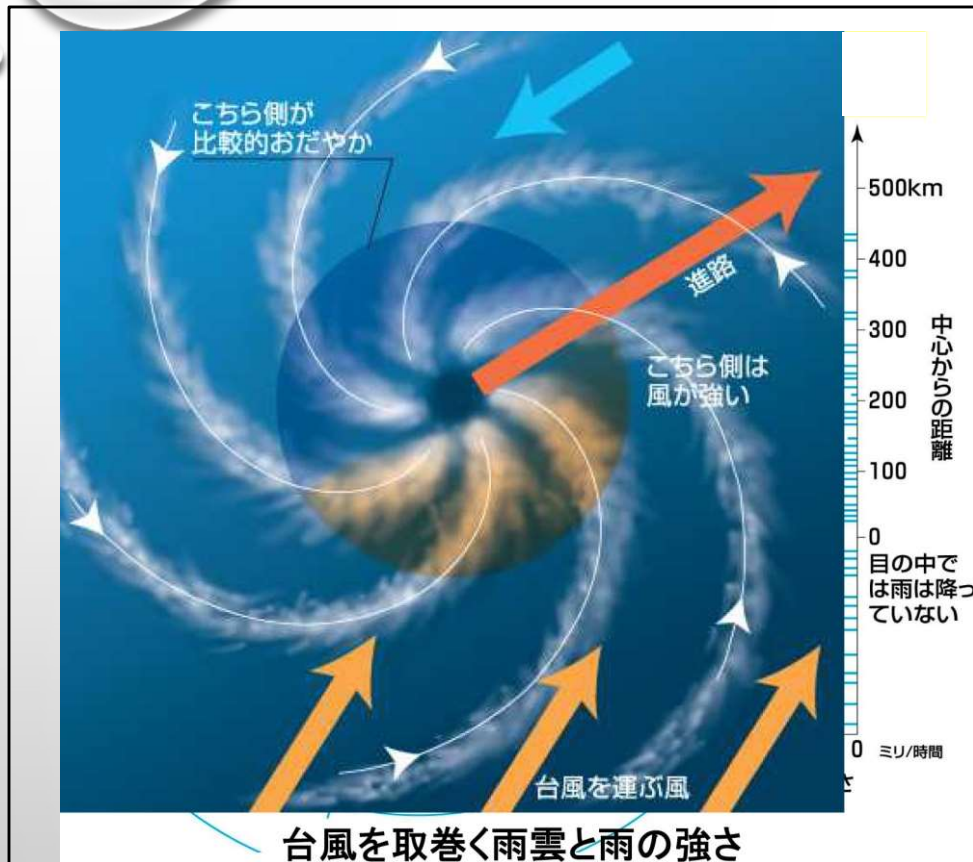
寒気と暖気がぶつかる前線では、軽い暖気が上昇して雨雲ができ、雨が降ります。

前線は毎年できます。豪雨になるときは、暖かい湿った空気が前線に送り込まれるときです(下図)。「太平洋高気圧」が台湾付近まで張り出したときに、時計回りの気流により日本海へ暖かい湿った空気が送り込まれます(左図)。



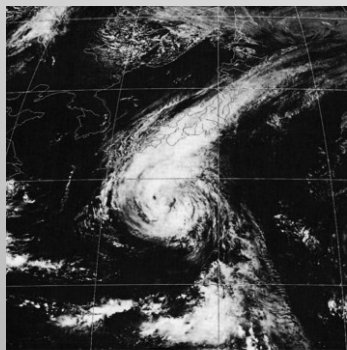
「図解 気象・天気のおもしろい事典」
成美堂出版 より引用。

○ 豪雨・暴風になる時の気象（台風）



台風の進路

熱帯地域から中緯度地域へ移動する台風の進路は、「太平洋高気圧」の張り出し方によって変わります。春先はまだ台風の発生する緯度も低く、西進した台風は、そのまま西へ進むことが多いが、夏になり発生する緯度が高くなってくると、「太平洋高気圧」の縁を回って日本に接近する台風が増えてきます。太平洋高気圧の張り出し具合がちょうど日本にかかるのが9月頃で、日本を直撃する台風は9月に来ることが多い理由です。

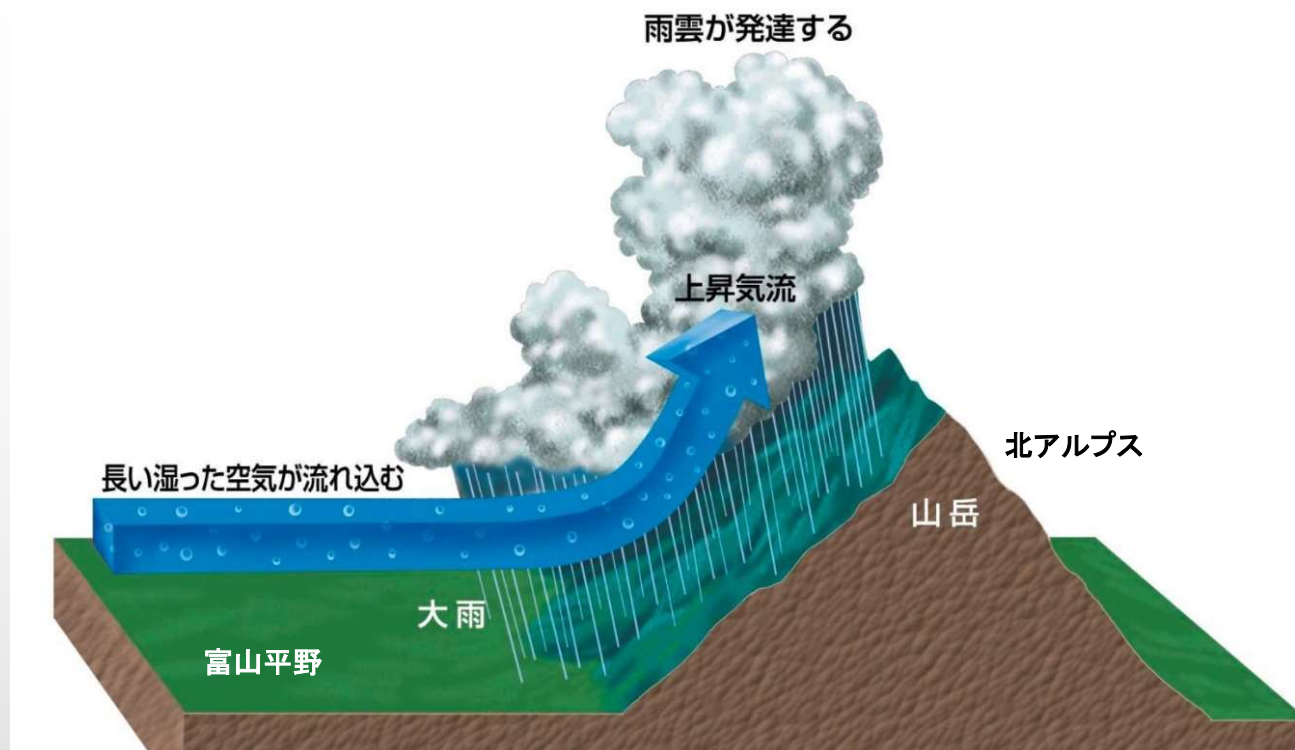


昭和57年9月10日台風
18号衛星画像

台風の左半分は「加航半円」と呼ばれ、比較的穏やか。

進行方向の右側は、「台風側」と「台風を運ぶ風」が合わさり風が強い。

○ 地形性降雨

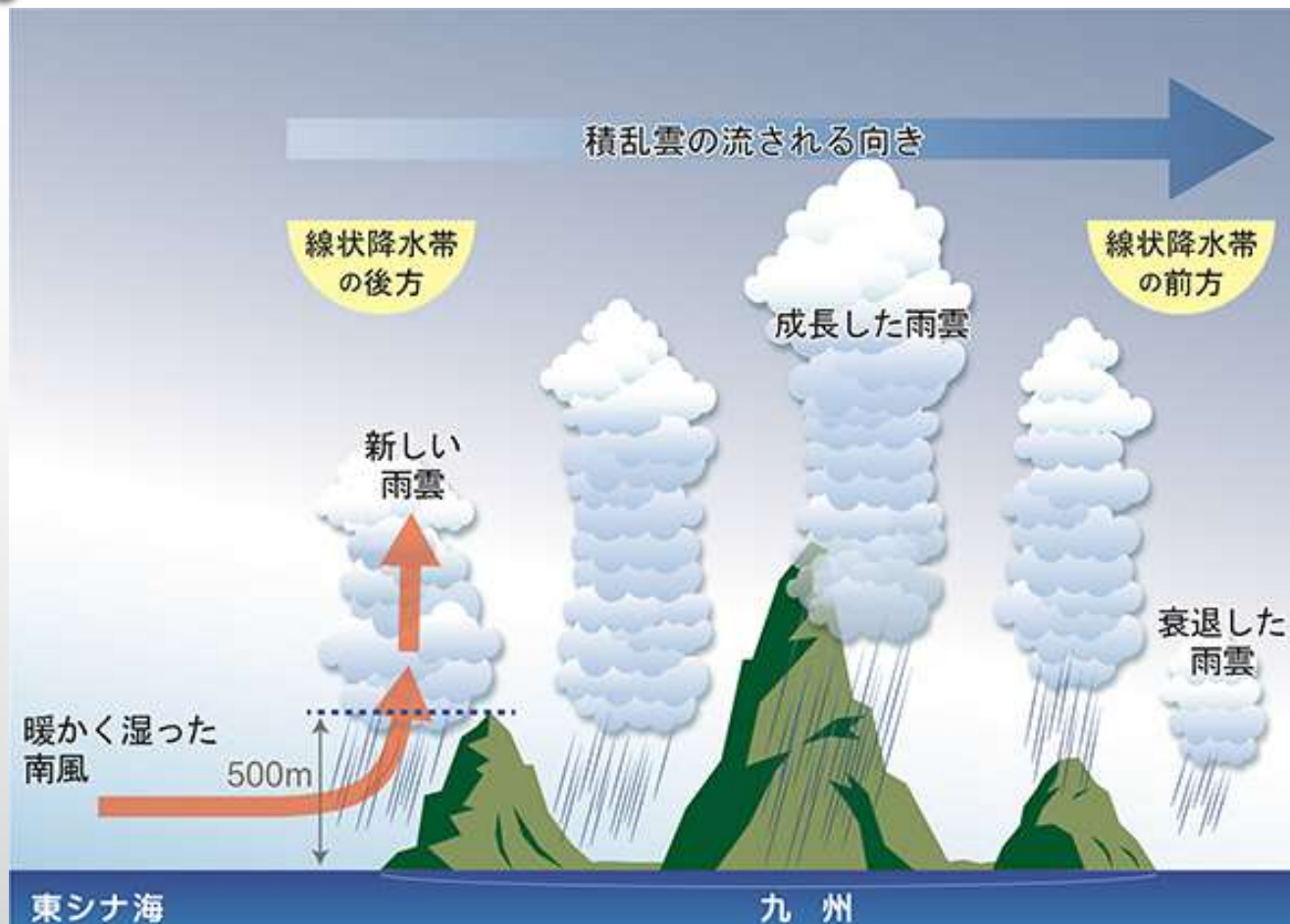


「千曲川・犀川の気象」,国土交通省北陸地方整備局千曲川工事事務所,北陸建設弘済会発行 より引用。

雨雲は、地表付近にある湿った空気が上昇気流により上昇し、冷やされることによってできます。雨雲が発達するために、必要な上昇気流の一例として、空気が山の斜面に沿って上昇するケースがあります。とくに北アルプスのような高標高の山岳は、降雨や降雪に大きな影響を及ぼしています。

北陸地方には、隆起量の大きな山脈が存在しており、降雨や降雪にも地形が大きく影響しています。

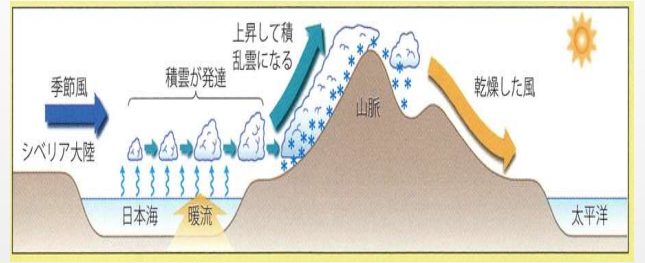
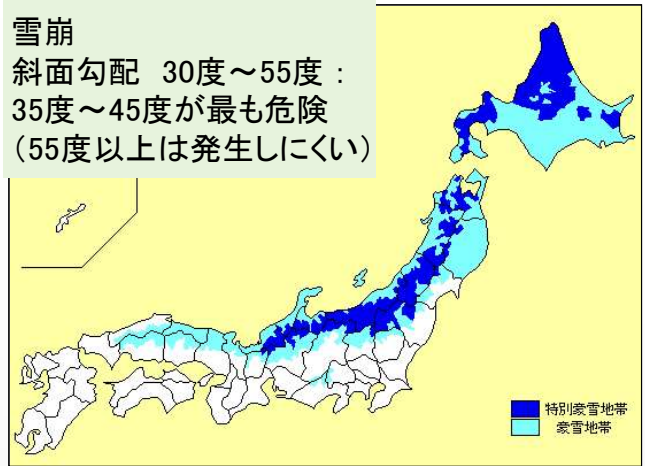
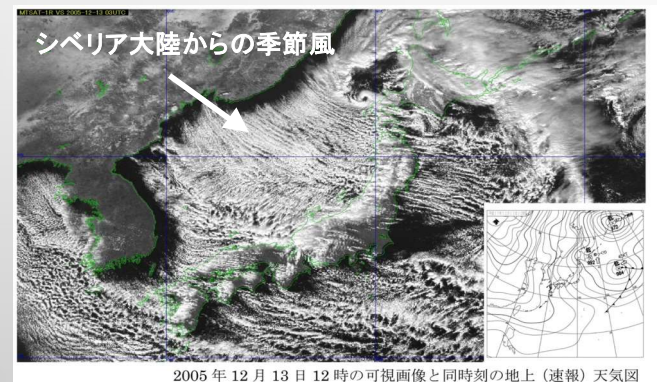
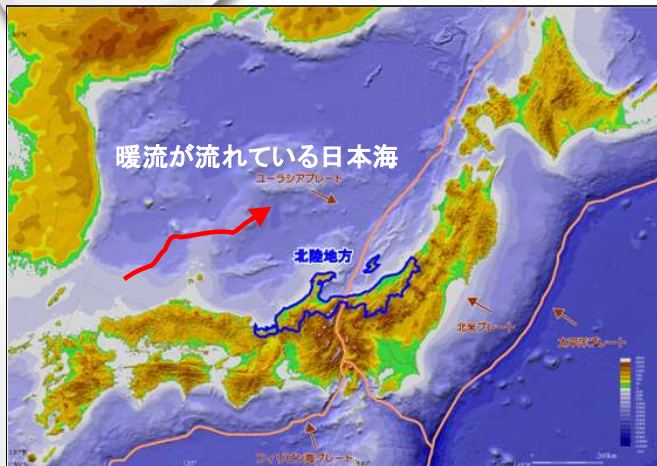
○ 線状降水帯



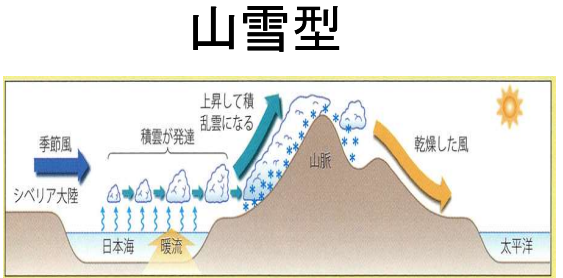
国立研究開発法人 海洋研究開発機構HPより

線状降水帯(昔から存在:観測体制や分析手法の進歩により、その存在がより明確に)とは次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水をともなう雨域。

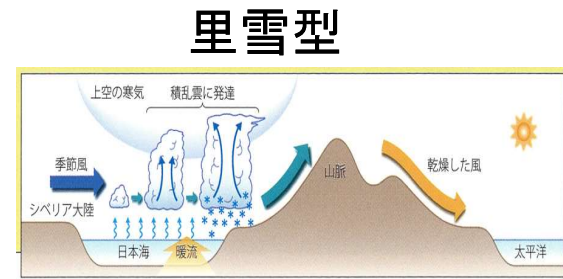
1-3. 雪が降る



シベリア大陸からの季節風は、日本海を渡る時に暖流(対馬海流)から水蒸気と熱を与えられ雲を作る。この雲は山脈にぶつかって上昇するとき積乱雲になり雪が降る。



日本海でできた雲が、山脈にぶつかって上昇し、山沿いで雪が降る。



日本海上空に寒気がある。海上で雪雲が発達し、沿岸や平野部で雪が降る。

出典：北陸地方の災害と防災・減災 その1より

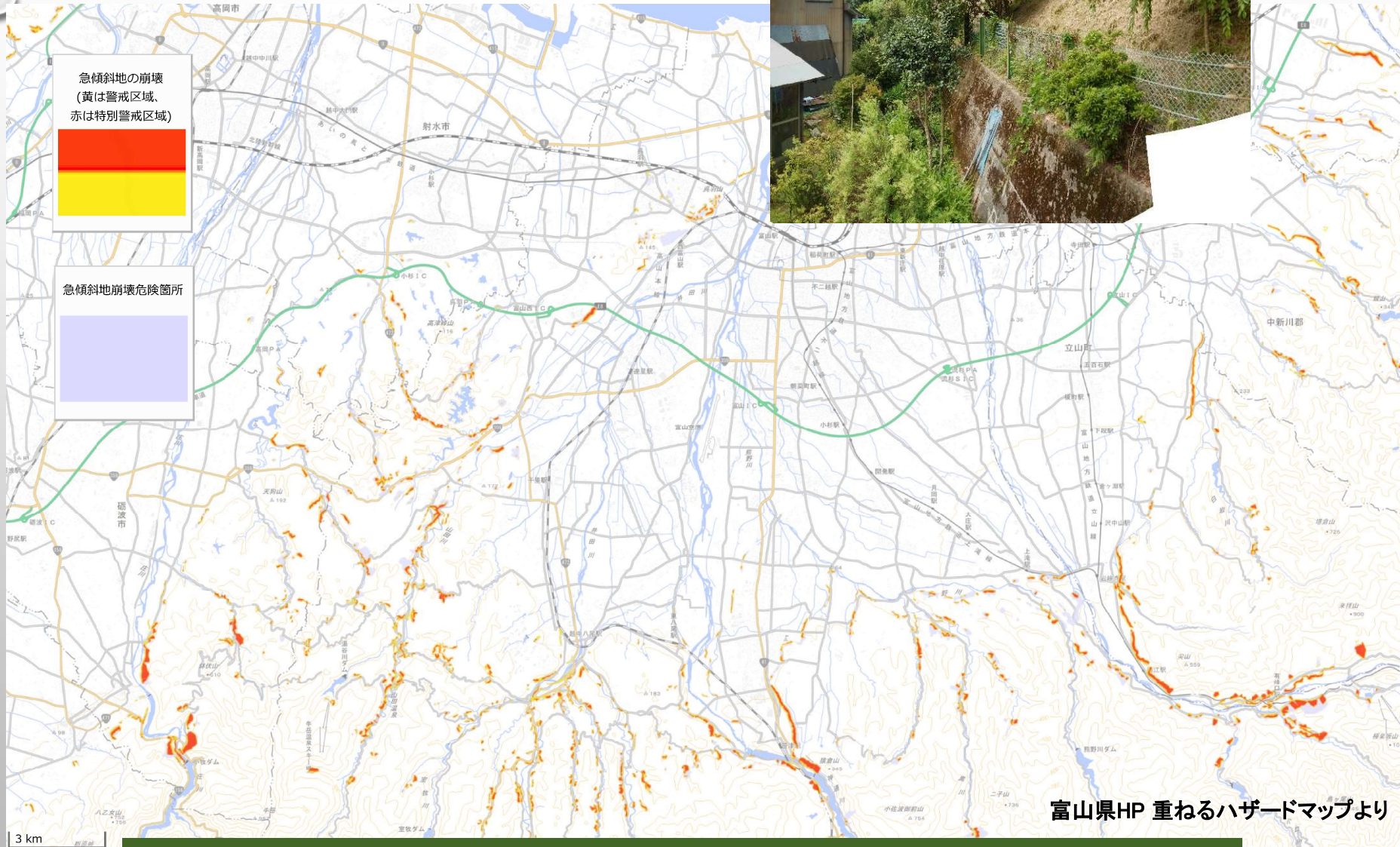
冬は、ヒマラヤ山脈・チベット高原がダムのようにシベリアの寒気団の南下を遮るために、シベリア寒気がたまり、シベリア気団は強大な気団に成長する。

北陸地方には、**隆起量の大きな山脈**が存在しており、降雨や降雪にも地形が大きく影響しています。

”雪は降るもの”として生活している

1-4. 隆起・浸食による急傾斜地がある

急傾斜地とは
傾斜度が**30度**以上である土地



“山・丘はあるもの”として生活している

2. 自然環境下での生活と災害

- ☆ “割れ目（活断層）の上”で生活している
- ☆ “雨は降るもの”として生活している
- ☆ “雪は降るもの”として生活している
- ☆ “山・丘はあるもの”として生活している

2-1. 「災害」とは(自然災害・人為災害・特殊災害)

広辞苑(岩波書店)

「**異常な自然現象**や人為的原因によって、人間の社会生活や人命に受ける**被害**」

広辞林(三省堂)

「**天災**や戦争・火事・事故などによって受ける**損害**」

「**災**」は、人命や甚大な財産の損失を伴う不幸な出来事で、深い悲しみを伴う「わざわざ」を意味
「**害**」は、健康、生活、生産および財産の物理的損害あるいは破壊的状态を意味

最初に「災」の付く言葉

災害、災難、災異、災厄、災禍、災厲、災患、災変

最後に「災」の付く言葉

天災、人災、火災、**水災**、**震災**、干災、**防災**、労災、**被災**、戦災、罹災、横災、**息災**、**減災**

最初に「害」の付く言葉

害悪、害意、害心、害毒、害虫、害鳥

最後に「害」の付く言葉

水害、**風害**、**雪害**、冷害、凍害、寒害、霜害、雹害、虫害、塩害、鉛害、鉍害、薬害、煙害、公害、病害、被害、加害、阻害、妨害、障害、損害、傷害、殺害、自害、利害、要害、有害、無害、百害、大害、実害、陰害、除害、食害、蝕害、怨害、凶害、侵害、賊害、陷害、生害

人間に影響を及ぼす事態に限られる。

例えば、洪水や土砂崩れが発生しても、そこにだれも住んでいなければ被害や損失を受ける者
は出ないため、それは災害とは呼ばない。

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より

2-2. たとえば「土砂災害」

災害対策基本法

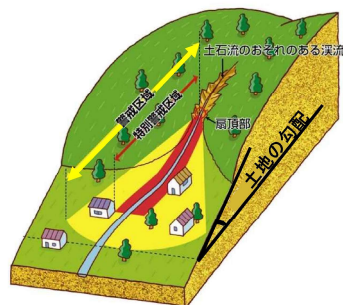
災害を「暴風、竜巻、豪雨、豪雪、洪水、崖崩れ、土石流、高潮、地震、津波、噴火、地滑りその他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害」と定義

「土砂災害」とは

急傾斜地の崩壊（傾斜度が三十度以上である土地が崩壊する自然現象をいう。）、**土石流**（山腹が崩壊して生じた土石等又は溪流の土石等が水と一体となって流下する自然現象をいう。第二十七条第二項及び第二十八条第一項において同じ。）若しくは**地滑り**（土地の一部が地下水等に起因して滑る自然現象又はこれに伴って移動する自然現象をいう。同項において同じ。）（以下「急傾斜地の崩壊等」と総称する。）又は**河道閉塞による湛たん水**（土石等が河道を閉塞したことによって水がたまる自然現象をいう。第七条第一項及び第二十八条第一項において同じ。）を発生原因として**国民の生命又は身体に生ずる被害**をいう。

土石流

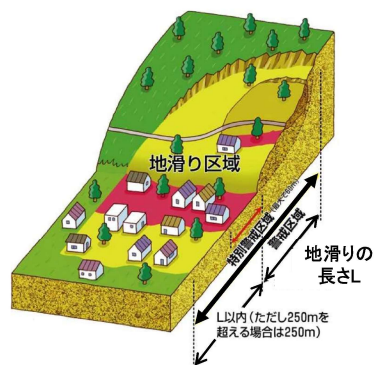
※山腹が崩壊して生じた土石等又は溪流の土石等が水と一体となって流下する自然現象



・土地の勾配2度以上
(1/30)

地滑り

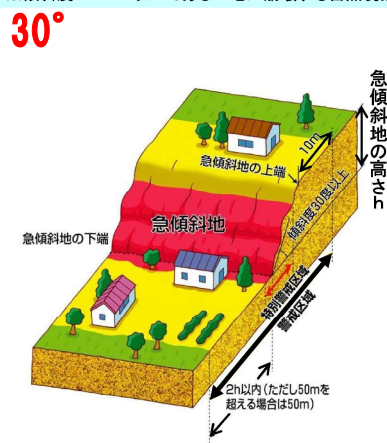
※土地の一部が地下水等に起因して滑る自然現象又はこれに伴って移動する自然現象



・地滑りの長さの2倍以内^{※1}
※1 ただし250mを超える場合は250m

急傾斜地の崩壊

※傾斜度が30°以上である土地が崩壊する自然現象

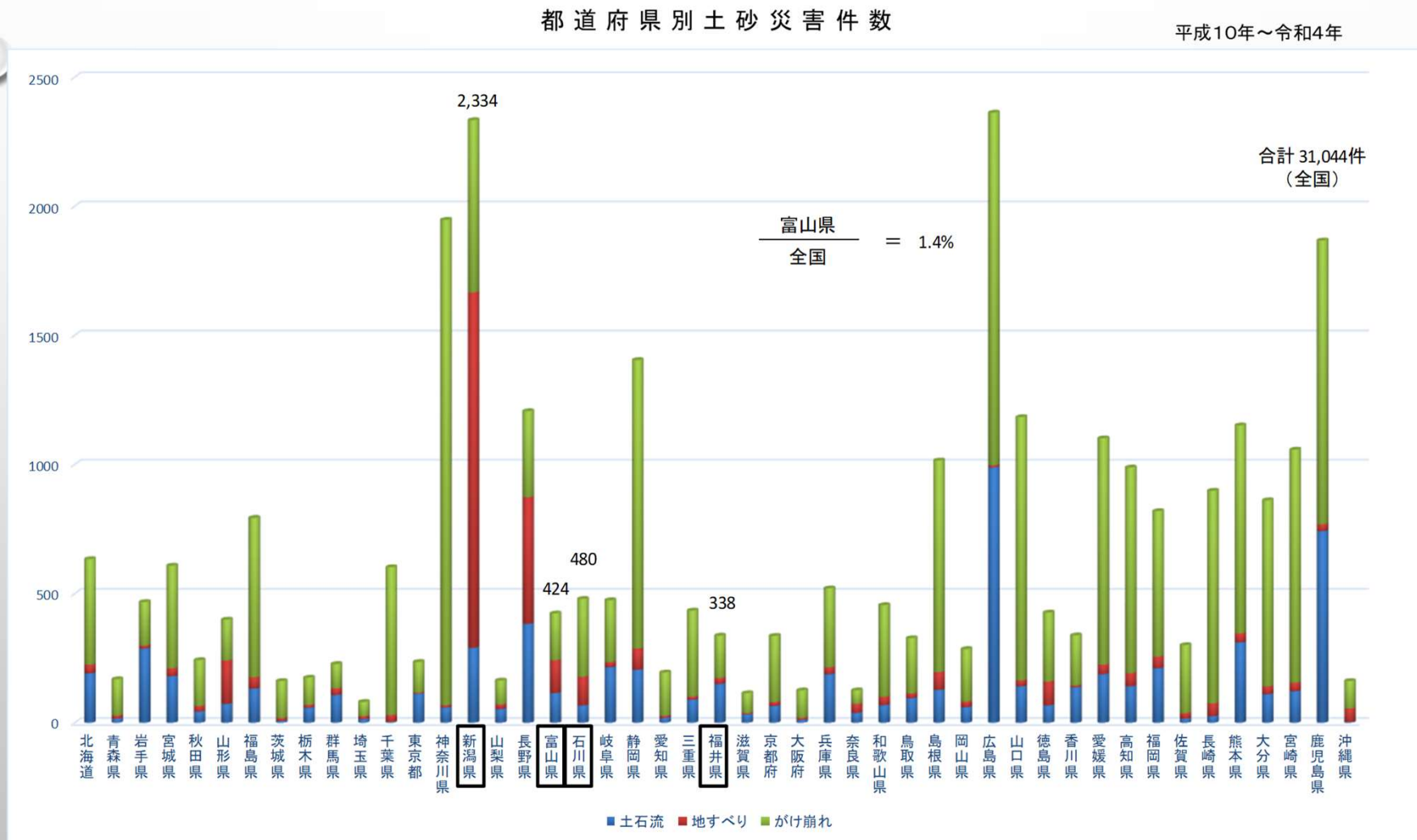


・急傾斜地の上端から10m^{※2}
・急傾斜地の下端から高さの2倍以内^{※2}
※2 ただし50mを超える場合は50m

地滑りについては、地滑り地塊の滑りに伴って生じた土石等により力が建築物に作用した時から**30分**が経過した時において建築物に作用する力の大きさとし、地滑り区域の下端から最大で**60m**範囲内の区域

○ 土砂災害件数からの考察

平成10年より令和4年までの土砂災害件数を以下に示す。



国土交通省 土砂災害データより集計

注目すべきは神奈川県であり、がけ崩れによる災害(人間に影響を及ぼす)件数が突出している(都市型斜面災害)

3. 富山県内での災害

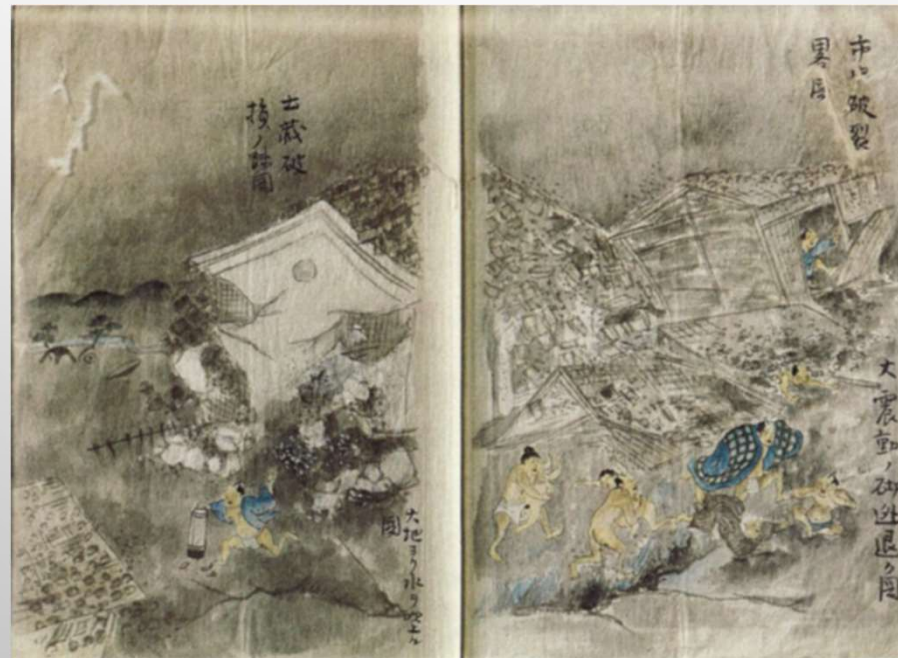
3-1. 地震

安政5年2月26日（1858年4月9日）未明に発生した飛越地震は、跡津川断層の活動による典型的な内陸直下地震であり、地震の規模については近年、マグニチュード7.3～7.6と推定されている。また、この地震は、2つの地震が相次いで発生した、マルチプルショック(双子地震)だったことも考えられている。

山岳地帯を走る跡津川断層の活動による地震であったために、山崩れや崖崩れが多発し、各所で崩壊した土砂が川を堰き止めたり(天然ダム)、道路が寸断されるなど、山地災害が顕著であった。

山地災害の中でも、飛越地震の名を後世にとどめる要因となったのは、立山連峰の大鷲山と小鷲山の大崩壊である。現在は立山カルデラと呼ばれている凹地形の底に向かって、山体の一部が崩れ落ちた。

「内閣府 災害教訓の継承に関する専門調査会報告書
平成20年3月 1858 飛越地震」より



* カルデラとは
カルデラの語源は、ポルトガル語やスペイン語で、暖炉の中にぶら下げる古い鉄の大鍋のこと。

地水見聞録「市中破裂略図」(富山県立図書館所蔵)

○ 先人達の飛越地震被害当時の対応

- ☆ 適切な情報収集と早めの避難
(常願寺川の流が止まったことによる土石流発生の予測・避難)
- ☆ 初期消火の徹底(火災による二次災害は発生していない)
(安政4年(1857年)に火の始末に関する「御触」がだされていた)
- ☆ 被害調査
(幕府からの拝借金支援を得るため。住民の不安を払拭するため)
- ☆ 情報提供
(村々から上部機関への届け。村役人が住民への情報発信)
- ☆ 食糧支援及び医療支援体制、物資運搬ルートの確保
(通常の手続きである幕府への伺書ではなく届出書として報告)

「内閣府 災害教訓の継承に関する専門調査会報告書
平成20年3月 1858 飛越地震」より加筆

3-2. 雨（飛越地震による二次的災害）

地震動によって構造物や地盤が直接被害を受ける「一次災害」の他、**崩壊土砂の流出、流出土砂の堆積した天井川化による洪水被害に代表される「二次的災害」による被害が顕著**であり、文献による大出水の記録は276回を数え、大きな被害を伴う出水は169回にも及んでいる。



安政五年常願寺川非常洪水山里変地之模様見取図



【富山市水橋地内の様子】

昭和44年の災害

昭和44年の被害
県下の被害額 約240億円

下流での堤防工事を主とする河川改修工事に加え、その原因となっている水源地の荒廃を復旧させるための、砂防工事を継続中！（地震発生より164年経過）

3-3. 雪

昭和38年豪雪

- 最深積雪：**富山市186cm、高岡市伏木225cm**

富山県だけでなく、日本海側の地域で豪雪

- 積雪経過

1/7 富山湾一帯に高潮と吹雪により沿岸部に被害発生

1/13～27 雪が降り続き、積雪量が多くなった

1月中旬から2月上旬の間、大雪警報4回、大雪注意報6回、風雪注意報3回、波浪注意報8回

- 被害状況

① 人的被害：死者15名、行方不明1名、負傷39名

② 建築物の被害：民家の全壊52棟、半壊135棟

③ 道路被害：連日にわたる積雪で除雪機械が不足、除雪能力が低下、1/26 不通過線248km

④ 公共交通への影響：国鉄：1/11から列車が次第に遅延

1/23には県内各駅に多数の列車が長時間停留

1/25列車が全面運休

長距離列車は2/18まで不通



「富山県の雪対策の歩み」より(写真は北日本新聞社提供)

昭和56年豪雪

- 最深積雪：**富山市160cm、高岡市伏木154cm**

富山県だけでなく、日本海側の地域で豪雪

- 積雪経過

12/26～28 降雪が続く

1/2～14 雪が降り続き、積雪量が多くなった

降雪量累計は2月末で693cm 38豪雪の568cmを上回る

- 被害状況

① 人的被害：死者22名（落雪・除雪）、負傷1,167名

② 建築物の被害：民家の全半壊59棟、非住宅の全半壊174棟

③ 道路被害：38豪雪の経験から、「55年道路交通除雪計画」に基づき、除雪を実施

④ 公共交通への影響：国鉄：国鉄各線は12月末～1月中旬を中心に列車の運休、遅延
最も厳しい第5次規制を適用し、輸送を確保



さしもの鉄骨も雪の重みでダウン



あまりの積雪に遂に工場も全壊の憂き日に

4. 忘れる法則

記憶減衰の法則

東京電力福島原子力発電所における政府の事故調査・検証委員会委員長を務めた畑村洋太郎(はたむら ようたろう)東大名誉教授は、人間の記憶減衰の法則を次のように述べている。「3日目で個人が内容に飽きる。3ヶ月で関心が冷え、3年で忘れる。30年を経ると組織としての記憶が途絶する。60年で地域が忘れ、300年で消える。1200年経つと文章や文化として残存していたものすらなくなる」。

一般財団法人 国土技術研究センターHPIに加筆

心理学者エビングハウスの実験によれば、人間は1度覚えたものを24時間後に74%忘れるようだ。

next global jungle—記憶力をアップする方法、エビングハウスの忘却曲線より

3の倍数になにかあるのでは？
(日本語の「三」や「三つ」には、区切りを象徴する意味合いが)

キーワードは“3”

御三家、三つ巴(みつどもえ)、三本の矢、三度目の正直、二度あることは三度ある、三つ子の魂百まで、三種の神器等々

【時間軸】

3秒ルール?(若い社員が言うには)



箸が床に落ちても3秒以内なら使用しても問題はないらしい?(落ちたことを忘れる)

3歩歩けば忘れる



鳥の三足(とりのみあし): 物事をすぐに忘れてしまう事やよく忘れる人をからかったりする際にいうたとえ。

3分『カップヌードル』



カップヌードル: 3分という時間は、人がイライラせず待ってられる時間の限界との見方。

3日(飽きる)



三日坊主: あきっぽくて何をしても長続きしないこと。また、そのような人のことをあざけていうことば。修行に耐えられず、三日で還俗げんぞく(一度、出家した者が、再び俗人に戻ることを)してしまう僧侶の意から

30日



忘却度合い: 79%忘れる

next global jungle—記憶力をアップする方法、エビングハウスの忘却曲線より

【時間軸】

3か月(冷める)



女性の方が未練を断ち切るのが早く、3ヶ月以内に気持ちをリセットして、新たな恋を準備している女性も多いということらしい。

3年(忘れる)



石の上にも三年:冷たい石の上でも3年も座りつづけていれば暖まってくる。がまん強く辛抱すれば必ず成功することのたとえ。
(辛いことを忘れる)
三年寝太郎?

30年(途絶える、崩れる 組織)



2025年時点

日航機墜落事故:1985/8/11:40年

阪神淡路大震災:1995/1/17:30年

東日本大震災 :2011/3/11:14年

長く活動を続けているうちに、人間の入れ替わりが行われる。当事者がいるうちは大丈夫でも、当事者が引退し、当事者の体験を直接聞いていない人が増えてくると、徐々に記憶の減衰が起こり、過去に経験した大きな事故やトラブルの記憶であらうとだんだんと忘れ去られていく。

「未曾有と想定外—東日本大震災に学ぶ」 畑村洋太郎著より

60年(地域が忘れる 地域、社会)



2025年時点

38豪雪:1963/1:62年

44災:1969/8:56年

56豪雪:1981/1:44年

宮城県北部地震:1962/4/30:63年

かなり大きな出来事であっても、地域から記憶が消えていく。

一人の人間の活動期間が長く、過去の記憶がかなり長く維持されるが、それでも人間には寿命があるので、人間が入れ替わる中で、だいたい60年もすれば、かなり大きな出来事であっても、地域から記憶が消えていく。

「未曾有と想定外—東日本大震災に学ぶ」 畑村洋太郎著より

【時間軸】

150年



かなり大きな出来事であっても、記憶が消えていく。歴史の教科書で学ぶ。

2025年時点

飛越地震 : 1858/4/9 : 167年

東京大空襲: 1944年(昭和19年11月24日～
1945年(昭和20年8月15日) : 80年

2.26事件 : 1936年(昭和11年2月26日): 89年

明治三陸地震津波(1896年): 129年

昭和三陸地震津波(1933年): 92年

災害の伝承

飛越地震: 立山砂防事業

大東亜戦争: 終戦記念、まだ語り部がいる

三陸地震津波: 自然災害伝承碑の地図記号

300年(社会としてなかったこと?)



歴史の教科書で学ぶ。

2025年時点

天正地震: 1868年: 466年

【必ず忘れる】

人はどんなに辛いことを経験しても、「忘れる」「忘れようとする」本能が機能する。

【正常性バイアス】

目前の出来事を正常の範囲内だと認識しようとする心理が働いて、危険を過小評価し、危機回避のための行動を取らない。

【同調性バイアス】上手く利用できないか？

「人と同じに行動」していれば問題ない社会 と感じている

忘れないために

適切なタイミングで復習すれば記憶の忘却のスピードは緩やかになり、結果としてすぐに忘れてしまう短期記憶から、時間が経っても忘れない、長期記憶に移行する。

①災害が個人にとって意味のあるものであったり重要なものであること。

災害を思い出すきっかけ (毎年の慰霊祭等のマスメディア対応)

(被災経験のない若者世代に教訓を伝承・学習)

②**復習を重ねる**ことに忘れにくくなること。

(時間をかけて**何度かに分けて学ぶ(3年間隔?)**・情報発信。)

幼児期からの学習はもとより、**義務教育課程(9年:6年+3年)及び高等教育課程(3年)** における**教訓・防災学習**。(3年周期?)

災害のことを知り、防災訓練(同調性バイアスを利用?)、災害教訓の伝承を進める(思い出すきっかけ)ことができれば。

忘れないよう(思い出すよう)「**防災リテラシー(正しく防災を理解する能力)**」、「**自主防災組織**」の**設置・活動の推進**を創ることが大切です。

終わります。

ご清聴ありがとうございました。

補足) 富山県・石川県周辺の地震の可能性

北陸地方における「活動期」と「静穏期」に分けて被害地震を整理してみました。

1719～1788年(70年間) 2地震(静穏期)

1789～1858年(70年間) 5地震(活動期)

1859～1890年(32年間) 1地震(静穏期)

1891～1961年(71年間) 11地震(活動期)

1962～1994年(33年間) 2地震(静穏期)

1995～2064年(30年経過) 4地震(活動期)

「活動期」を70年間としたら、まだ39年残っている。

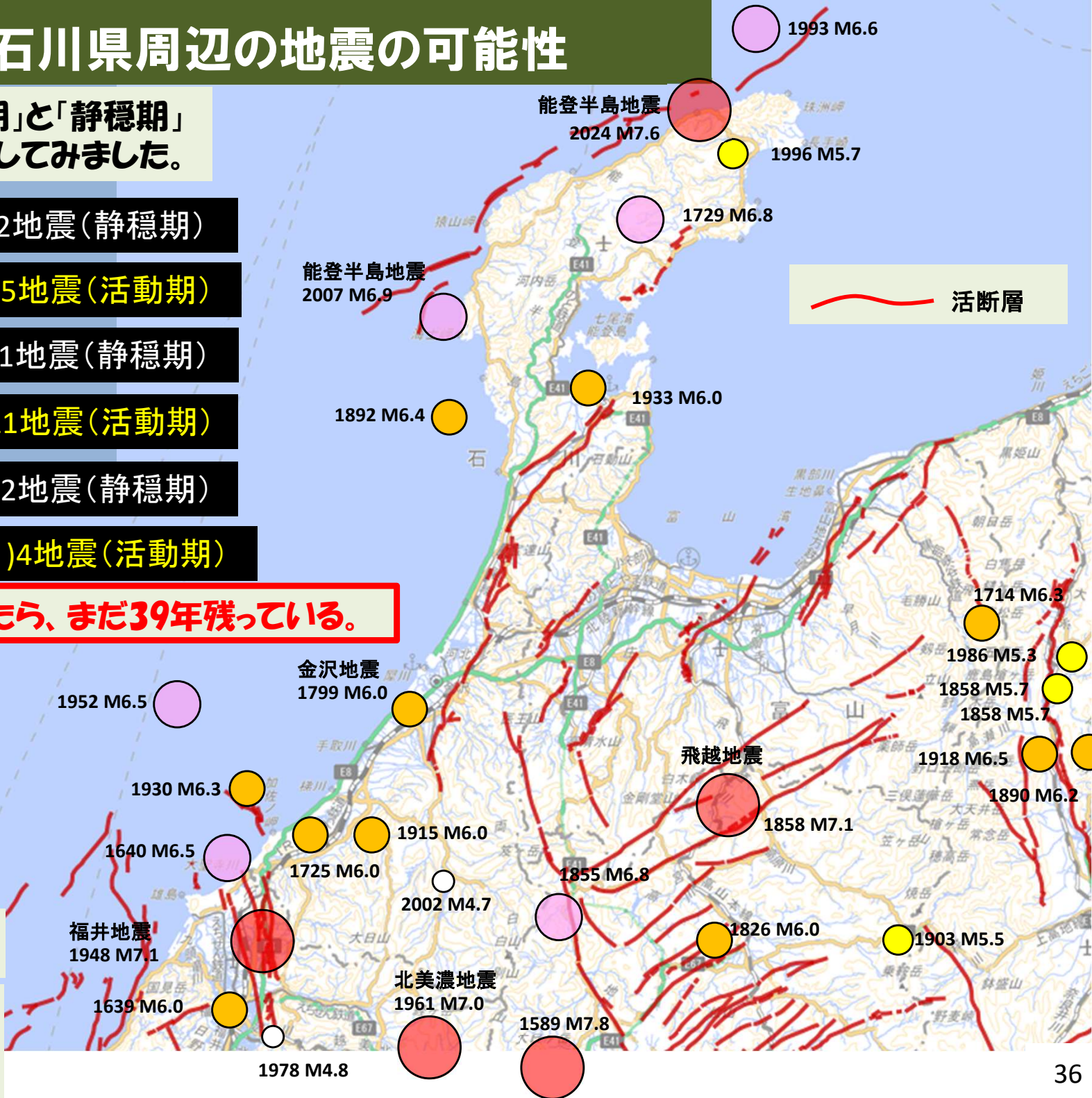
1714～2007年(293年間)

主な被害地震の震源

- M7.5～7.4
- M6.5～6.9
- M6.0～6.4
- M5.0～5.9
- M4.0～4.9

「活断層データ」は、活断層データベース 産総研による。

「地震データ」は、地震調査研究推進本部地震調査委員会(2009):日本の地震活動ー被害地震から見た地域別の特徴ー第2版:による。



補足) 富山県・石川県周辺の地震の可能性

北陸地方における「活動期」と「静穏期」に分けて被害地震を整理してみました。

1719～1788年(70年間) 2地震(静穏期)

1789～1858年(70年間) 5地震(活動期)

1859～1890年(32年間) 1地震(静穏期)

1891～1961年(71年間) 11地震(活動期)

1962～1994年(33年間) 2地震(静穏期)

1995～2064年(30年経過) 4地震(活動期)

「活動期」を70年間としたら、まだ39年残っている。

1714～2007年(293年間)

主な被害地震の震源

- M7.5～7.4
- M6.5～6.9
- M6.0～6.4
- M5.0～5.9
- M4.0～4.9

「活断層データ」は、活断層データベース 産総研による。

「地震データ」は、地震調査研究推進本部地震調査委員会(2009):日本の地震活動ー被害地震から見た地域別の特徴ー第2版:による。

